

「今井の里」と「助郷の道」を訪ねる

9月3日(日)諏訪形誌を歩く第10回ウォーキングイベントが行われました。今回は諏訪形自治会からの補助金もいただき、荒神宮と関わりがあるとされる今井四郎兼平の故郷、松本市今井と、戊辰戦争の助郷として諏訪形の人々も参加した北国脇往還の青柳宿と麻績宿とを訪ねました。諏訪形誌活用委員会の企画イベントとして初めての終日行事でしたが、18人の皆さんにご参加いただき、研修と交流とを深めることができました。

三才山トンネルの工事渋滞が心配されましたが、スムーズに通り返ることができ、まずは、「兼平の形見石」などが祀られている「諏訪神社」に参拝しました。このお宮では9月、「灯籠まつり」が行われるそうです。諏訪神社境内にはこの時に使われる灯籠を収納する倉庫(?)が並んでいます。



次に、今井兼平の位牌が残る宝輪寺に向かいます。ここでは、住職さんとお話をしてくださり、兼平の位牌も見学させていただきました。また、今回は今井文化財委員会の原さんと兼平について研究されている今井地区在住の櫻井さんにも解説やご案内をいただきました。



実は、原さん、櫻井さんとは今回初対面だったのですが、無理なお願いにもかかわらず、資料まで用意していただき、気持ちよく案内していただきました。本当にありがとうございました。

宝輪寺を後に、兼平の住居があったとも伝えられる兼平神社に向かいます。兼平はここから朝日村の観音堂に日参したとも言われています。残念ながらこの観音堂には今回は行かれませんでした。素晴らしいお堂です(『諏訪形誌Web版 今井四郎兼平の故郷 信濃国筑摩郡今井郷』をご参照ください)。



案内いただいた
原さん(右)と
櫻井さん

さて、私たちは今井の里を後にして、助郷の道に向かいます。坂北駅でバスを降り、青柳宿を抜けて大切り通しに向かいます。暑い日でしたが、吹き抜ける風は爽やかでした。古い宿場の雰囲気を残す青柳宿を過ぎ、たどり着いた切り通しは圧巻です。



講師の北沢さん(諏訪形誌活用委員会顧問)、窪田さん(諏訪形誌活用委員会委員)や、諏訪形誌編纂時に古文書の解説にあたっていただいた矢島さんのお話を聞きながら今回最後の見学地、麻績宿に向かいます。



麻績も古い宿場の面影を残す家並みが続く町並みです。古の諏訪形の方々のご苦勞を偲びながらの散策となりました。

今回ご参加いただいた皆さんから次のような感想をいただきました。

- とてもいいところへ計画していただきました。青柳宿は20年前に来たことがあるけど、全然かわっていませんでした。屋号をゆっくり見られてよかったです。
- 今井地区のことは全く知らなかったです。兼平の領地はいい所にあっただなあと思いました。
- ウォーキングイベントの参加は2回目です。歴史に出てくる名前も知れて良かったです。私は上田からあまり出たことがないので、今日のようにみんなと一緒にいって話もでき、遠くへ行かれてお陰様だと思いました。

※次回ウォーキングイベントは11月5日(日)「六ヶ村堰頭首工と隣村・小牧地区探訪」を予定しています。諏訪形の皆さんはもちろんですが、他地区の皆さんのご参加も大歓迎です。10月中の回覧と当ホームページで参加者募集を行います。